

酔ったらキス魔になる姉と密着ベロチュー交尾生活♡

01.距離感の近い姉が、今日も酔っ払って帰ってきた

▼夜、部屋でくつろいでいるあなた

▼ほろ酔い気味、上機嫌で鈴菜が帰宅

「ん〜♪ たっだいま〜」

「ん〜？ お〜お〜！ 弟よ〜！ 姉の帰りを待っててくれたのかー！」

▼鈴菜、あなたに近づき

▼あなたにボディタッチしながら

「愛い奴め〜♪」

▼あなた、酒の匂いに苦言

「ん〜？ なんだよ〜」

「お酒？ もちろん呑んできたけど〜？」

▼少しだけムスっとした感じで

「しょうがないでしょ〜？ 毎日遅くまで働かせられてさ〜」

「ストレス発散するとしたら〜ひとりで飲みに行くしかないでしょ〜？」

▼愚痴っぽく

「まあ、だ〜れも付き合ってくれないからなんだけどね〜」

「1回だけ付き合ってくれるのに、2回目以降はさっっぱり」

「私は普通に適量飲んでるだけなんだけどなあ〜」

▼ぼそりと

「おかげで...彼氏もずっとできないし」

▼現実を意識するため息

「はあ〜」

▼テンションが下がり

「あ〜駄目だわ。これ...」

「せっかく飲んで現実の解像度下げて来たのに、

また現実が押し寄せてきた...んぐぐ...

▼酒を飲もうと考え

「これはまた飲むしかないわね...うん、しょうがない」

「というわけで、決定！ 今からここを4次会の開催地とする！」

「だから、あんたも付き合ってよ〜！」

▼あなた、もう遅いからと否定気味

「なーにーよー！ 私の命令、聞けないっていうの～？」

「もう一弟ですら私のこと邪険にするんだ～」

▼バレバレの嘘泣き

「しくしく…」

「チラ…チラチラ」

▼あなたが帰ろうとしていると見抜き

「あー、こらー！ 部屋に戻ろうとするな～！」

「どーせあんた、明日は暇なんでしょ～？」

「たまには付き合いなさいって～」

▼近づき

「今日はママ達もいないから、リビングで宴会開いても怒られないんだしさ～」

「だからね…1杯、1杯だけでいいからさ！ 付き合ってよ！」

「最悪、あんたは飲まなくてもいいし！」

「さみしい姉を救うと思って…さ！ ね？ ね？」

▼あなた、しょうがないなあという感じで

▼上機嫌になり

「んふふ～やりい～！」

「じゃ、お酒持ってきて～！ あとおつまみも～」

「ふふん♪ あんたところするのも久しぶりだし～」

「今晚はお姉ちゃんが話を聞いてしんぜよう～」

「恋バナとか？ 恋バナとか？ 恋バナとか！ あるんでしょ～？」

「ほーら、早く早く～乾杯したいんだから、お酒持ってきて～！」

「ん～、よろしく～」

02.へべれけ姉の晩酌に付き合ってたはずが、なんか大変なことになっていた

▼2人で飲み会をはじめた結果、酔っ払った鈴菜に押し倒されたあなた

▼酔っ払いった姉、あなたに夢中キス

「んちゅう、ちゅぷう...んふう♡ んんう！ んちゅう！」

「ちゅぱ...れるれる...れろれりゅ...れる、ちゅぱあ...！ んっ、ちゅううっ！」

▼キスを終えて、息を荒げて

「ぷはあ...はあ、はあ...はあ...」

▼酔っ払っているので自分が何をしているのかわからず

「ん〜...？ あれえ？ なんで私...チューしてるんだっけ？」

「えへへ...まあいっか...気持ちいーし」

▼キス再開

「んっ...ちゅっ、ちゅう♡ ちゅ、ちゅうう...ちゅりゅ、ちゅぷ...」

▼ベロチュー

「んんう♡ れるれる、れろちゅう...れるれりゅれるれりゅ...」

「んはあ...れりゅれりゅ、れるれりゅ、れるちゅう、りゅりゅ...」

▼キスを終えて

「んっ...ちゅうう...ぷはあ...」

▼あなた、お酒くさい的な指摘

▼鈴菜、きょとんとしつつ

「んう...ええ？ おしやけ？ におい？」

▼自分で匂いを嗅ぎ

「すんすん...ん〜♡ まあ、いーじゃん、いーじゃん」

「今はさ〜ちゅーしよ？」

「いーじゃんか〜、ちゅーしたいの〜」

▼キス再開

「んっ...ちゅう、ちゅう...ちゅ、ちゅぷっ...」

▼ベロチュー

「ふう...んっ、れるれる、れろれろ、れりゅりゅ〜」

「んふう♡ ちゅう、ちゅう〜れるれる、れろむっ、ちゅ〜♡」

▼キスを終えて

「はあ、ふう〜♡」

「んふふ〜...ちゅー、きもちいーね♡」

▼酔っ払って相手が弟だと認識していないので、デレデレな感じで

「んっ...♡ ちゅー、好き〜」

「上手い人のちゅ〜はあ...も〜っとしゅき〜♡」

「ん〜！ そうだ〜！ お前のことらぞ〜！」

▼顔を近づけ

「隙あり〜♡」

▼キス

「はあ、ふっ...んっ♡ ちゅうう♡」

「んちゅう、ちゅう...れるれる、れるちゅう♡ はふう♡

んちゅう...ちゅぶ、ちゅりゅりゅ...

「れるれる、れろれりゅう♡ んんう♡ れるれる、れろれりゅ...

「りゅりゅれるう...♡ んう、ちゅぶあ♡」

▼エッチしたい欲が高まっており

「ふう...ふう...♡ あは〜♡」

▼あなたの股間に手を伸ばして

「ん〜？ なんかここ...おーきくなつてな〜い？」

「ちゅーだけでえ、こんななつちやつたの〜？」

▼上機嫌

「か〜わい〜♡」

「んう、ふう...ふう...♡ でも、えへへ〜」

「けっこー、うれしーかも」

「だって私のこと、かわいーって思ってくれてるんだもんね〜？」

▼圧強め

「そーだよね？ ね？」

▼あなた、姉相手なので言い淀み

「ん〜？」

「もしかして、恥ずかしがり屋さんか〜!？」

「まあ、いーよいーよ、そういうところも可愛いし〜」

▼キス

「ん〜っ、ちゅう♡ えへへ〜」

▼抱きつき

「んう〜♡」

「私もさ〜...チューだけじゃ〜...物足りなくなってきたっていうか〜？」

▼あなたの方を見ながら

「...したい...んだよねえ」

▼照れ隠し気味に

「ていうか、ここ暑いしさ〜」

「んっ、脱いじゃお？」

「そーだ、チューしながら脱がし合いっこしよーよ！」

「ルールは、チューしながら、服を脱がせ合って〜...

ぜーんぶ脱がせる前にチューやめた方が負け〜！」

「負けた方が〜ふう、はあ...ん〜どうしよっかな...」

「1杯奢るって感じでっ！」

▼あなた、断ろうとするも...

▼鈴菜、楽しげに

「ふう、ふう...んふふ〜♪ 駄目で一す、ルール変更は認めませ〜ん」

「ほーら、こっち見て〜見て一つ！」

▼キス

「んっ...ちゅう♡」

▼キスしながら服を脱がし合う

「んちゅう...ちゅう、ちゅぱあ、はあ...ちゅう...」

「んちゅう、ほらあ...服、脱がして...んちゅう、ちゅぶ、ちゅぶりゅ、ちゅぱあ...」

「んっ...ふう...ちゅう、れるれる、れろれりゅ、んちゅう、ちゅう...」

▼満足そうに

「んっ...♡ ふう、ふーっ...れろれろ、れりゅれりゅ...れりゅ、れちゅう...」

「んちゅう、ふう、ふう...ちゅぶ、ちゅううう♡ ぷふう...♡」

▼キス&副脱がせを終えて

「はあ、はあ〜♡ はあ〜♡ ふう〜♡」

「ん、けっこー脱がせるの上手いじゃ〜ん♡」

「ちょーっただけ、荒っぽいとこもあつたけど...

んっ...それだけ、私の裸〜見たかったんだよね〜？」

「んふふ、それじゃあ〜」

▼キス

「んっ、ちゅう、ちゅう...♡ ぷはあ...」

▼ねだるように

「しよ...♡」

▼あなた、流石に...という態度

▼おねだり継続

「い〜じゃん、い〜じゃん♡ ここまでやって終わりとかないでしょ〜♡」

「んっ...♡ ぜ〜ったい気持ちいいからさ〜♡ ほら〜、ほら〜♡」

▼あなた、押し倒されて

「えへへ〜。焦らしちゃってさあ〜こんなにしてるくせに〜？」

▼馬乗りでスマタ

「はあ、はあ...んっ♡ んっ♡ はあ...あっ...んんう♡」

「ここに...擦ると、んう♡ 気持ち...いい♡ はあ〜ふう〜♡」

▼倒れ込み

「んっ...はあ、はあ...」

▼キス

「んっ...ちゅう♡ ちゅう...ちゅうう♡」

▼口を離して

「ぷふう...んっ、んふう」

「ふふう...♡ また固くなった♡」

「んんう...♡ じゃあ、挿れちゃうね？」

「はあ、はあ...んっ、これくらい...私に任せなさい〜って...えへへ〜」

▼思ったより大きいなと思いつつ

「はあ、はあ...んう〜？ んう、ふう、ふう...♡」

▼挿入

▼感じて

「はっ...♡ んん！ んううう♡」

「はあ、はあ...♡ はあ、やっぱあ...これ...んう♡」

「挿れた...だけでえ...♡ はあ、はあ...いいトコ...んう♡

当たるんだけ、どお...えらいじゃーん♡」

▼嬉しそうに

「正直、自信ない感じだったし〜？

どんなもんかなって思ってたんだけどさあ〜」

「こんな、いいもん持ってんなら...さっさと言ってくれれば...いいのにい♡」

▼動こうと考え

「はあ、はあ...ふう...ふっ、んう...♡」

「じゃ、動いちゃう...からね～♡」

▼心の準備をしつつ

「はあ、はあ...ふう...はあ...」

「ん、ちょっと待って...ふう、ふう...心の準備っていつか？」

「これで、動いたら...さあ♡

私、すごく感じちゃうかもな～って思って...あはは...

「ま、そんなときゃそんな時かあ～...」

「んじゃ、あらため...てえ...！」

▼鈴菜、腰を動かしはじめる

「んう！ あっ！ ん！ あっ！ ああ！ はあ、はっ...！ あっ！

んんう！ はあ、ああ...はっ...はあっ...♡」

「んう！ はあ、はあ...あっ...んう！ やっぱ...りい♡ これ...すご...お♡」

「はあ、はあ...ああっ...んう！ あっ！ あはっ♡ はあ...はあ...！ んんう♡」

▼嬉しそうに

「こんな、はあ、はあ...あっ♡ いいトコ...当たること...ああ、んう！」

「あるんだ...はあ、はあ...あっ！ んう！ ねえ♡ はあ、はあ...ああっ！

んう！ んう！」

「これ...んう♡ すぐ...よゆーなくなっちゃう、かも～♡」

「はあ、はあ...んう！ んう！ んうっ！ んう！ はあ、ふう...んう♡」

▼声が漏れ出し

「んう、ふう、ふう...んう♡ はあ、はあ...ああっ...んう♡ んあ！

あっ！ んう！」

「はふう、ふう...んう♡ はあ、はっ...はっ...んう♡ はあ、くっ...んう♡」

「くう...！ うっ！ あう、はあ...はあっ...うあ！ あう、はあ、あっ！ あっ！ んう！」

「しゅごっ...いいよ♡ ああ！ あっ！ あっ...！ んあ！ はあ、ああ...！」

▼動きを緩めて

「それで...はあ、ふう...そっちは～？ んう、どうなんだ～？ んう！ あっ...」

「私の中...気持ち...いいかって聞いてんの～！ はあ、はあ...！」

▼あなた、回答

▼あなたの回答を聞きながら、満足そうに

「んう...ふう、ふう...ふう...んふう...♡」

「ん、ならよろしー♡」

「じゃあ、その調子でえ...楽しんじゃって...ね～♡」

▼動きを元に戻して

「んう！ あんっ！ んっ！ あん！ あっ！ あっ！ はあ！
あっ...！ んう！」
「んんう！ はあ、はあ...！ あっ！ んう！ あっ！ あふう...んう！
ああっ...んう！」

▼感じているのを隠さなくなり

「ふーっ、ふーっ！ んう！ やば...んう！
ちょっと...休憩...した、のにい...！」
「きもち一の、増えてえ...♡ んう！ ああ...んくう〜♡」
「んう！ 動いてない間にい...密着、した...んう！ のお？」

▼声が漏れ出て

「ああ！ んあ！ おうっ！ んう！ おっ...！ んう...！」
「んう！ ああ、待ってえ♡ これ、これえ...やばっ...かもお...おお...♡」
「変な感じ...声、漏れちゃう...しい♡ んう♡ おっ...ふうう♡」
「ふう、ふう...んう！ おっ...んう！ でも、んんう、ぐう...♡」
「良くて...んう！ あっ！ ふう...！ ああっ...んう！」
「全然、止まら...ないっ...んう！ おっ...んうう♡」

▼ピストンストップ

▼倒れ込み、息荒めに

「んう...ふう、ふう...♡ すごい...じゃんっ♡」

▼そのままキス

「はあ、ふう...んっ、ちゅう♡」
「んちゅう、ちゅっ...ちゅう、れるれる、れろ、ちゅう...♡」

▼吸い付くような感じで、口を離さず

「はあ、ふう...んう♡ ちゅう、ちゅりゅりゅ...んう♡ ふう、ふーっ...♡」
「れるれる、れろれる、れろれりゅ、んちゅう、むっ...んう♡
ちゅっ、ちゅううう♡」

▼キスを終えて

「ふう...ふう...んう♡」

▼照れながら

「い〜でしょ〜...♡ 気持ちいいし...♡
きしゅう...したくなっちゃったんだよお〜♡」

▼あなた、腰を動かし

▼激しく感じて

「んっ...おおっ！ あう！ んう！ ああ！ んっ！ おっ！ んう！」

▼慌てながら感じて

「んう！ ああ！ んっ！ 待ってえ...！ そっちから、はあ、はあ...んう！」

「動かれるとお...おっ！ んう！ んんう...！」

「ああっ！ んあ！ おっ...！ んう！ ふう、はあ...んんう！」

「駄目、だってえ♡」

▼感じて

「はあ、あっ...んう！ ああっ！ あっ！ んう！ あっ...！」

「顔にい...似合わず...んう！ 激し...いん...だか、らあ...♡」

「はあ、ふう...んう！ んおっ...！ おっ...！ んう！」

▼喘ぎ声を耐えようとして耐えれず

「ふーっ！ ふーっ...！ んう！」

「待って...んう、もう...ふう、ふう...！ んう...いきそ...だしい...！」

「んう！ ふう、はあ、ふっ...んんう！」

「変な声、んう！ おっ...でるのもお...やだからあ...んう！」

▼倒れ込み

「はあ、はあ...はあ、はあ...ふう...！ んう！ きしゅで...ふさいでえ...♡」

▼あなた、ピストン速度アップ

▼キスしながらスパート

「んう！ んちゅう、ちゅ、ちゅぶう！ んう！ んっ！

ちゅう、れるれる...！」

「んふう！ ちゅう、んうう！ ちゅっ、んっ！ れりゅ、ふう！ れる！」

「んぬちゅりゅ、んう！ ほっ...ふっ、んう！ やば...イグ...っ！」

「イグウ...んう！ おおっ...んふう、ちゅ、ちゅ、れりゅれりゅ...」

「んう！ いくっ...んう、りゅるれりゅ、イグ...んう！」

▼あなた、射精

▼絶頂しながら

「んっ、ぐうううっ...！」

▼キス

「んんう！ んふう、んっ...ちゅう、ちゅう...んっ！ んう！

ちゅっ...んんう♡」

▼キスを終えて

「んう...ぷふう、はあ、はあ～...ふうう...んう...」

▼ほろ酔い上機嫌で

「はふう、ふう...んう、やっぱ、最高〜♡」

▼あなたを見ながら

「んんう、あ、ごめんごめん...おしゃけ、臭かった〜？」

「ま〜ま〜...いーでしょー？」

「はふう...そっちもお、気持ちよかったんだし〜♡」

▼上機嫌で

「なら、プラマイプラだもん〜」

「ん？ 違うっけ？ まあいーや...」

「とりあえず〜...んう、疲れた〜」

▼ラブホテルだと勘違いしているので

「ん〜♡ あ〜...ここ、チェックアウト何時だっけ？」

▼あなた、ここは家だよ？ 的な反応

▼酔っているのでわけがわからず

「ん〜？ 何〜？ お家？ ならしゅごいね〜あはは〜」

▼あなたに密着しながら寝っ転がり

▼酔っているので

「ま〜起きたら調べればい〜し...とりあえず、寝ちゃお〜」

「ん〜...おやすみ...えーと、えーと...」

「誰しゃんだっけ？ んっ...まあ、いつか〜♡」

▼そのまま眠る

「ん〜...はあ、ふう...むにやむにや...」

03.シラフの姉と、朝チュン混乱大混乱

▼朝チュン

▼目を覚ます姉

「んっ...んう...」

▼起き上がり

「ああ～頭いたあ...」

▼辺りを見回して

「ここ...どこ？」

「ん？ リビング...？ あ～帰ってきて寝ちゃったのかあ...」

▼首をかしげて

「やば...服...脱いじゃってんじゃん...ママに見つかったら...」

▼横で誰かが寝ていることに気づき

「ん？」

▼恐る恐る敷いてあったタオルをどけて

▼あなたがいることに気づき

「...っ！」

▼声にならない声

「あっ...あっ...あ...!？」

▼絶叫

「な、なんであんたがここにいのよ～っ!？」

▼慌てて、早口気味で

「え？ え？ え...ていうかちょっと、待って待って？ さすがに冗談よね...？」

「冗談にしても最悪だけど...！」

「まさか...あんた、寝込みの私を襲っ...!？」

「いや、待ってなさい...今、思い出すから...

私、どんなに酔ってても記憶だけは呼び起こせるんだから...」

▼思い返しなが

「確か...私が帰ってきたらあんたがリビングにいて...」

「そこから酒盛りすることになってえ...」

▼自分が誘ったことを思い出し、間抜けな感じで

「...あ、あれえ〜？」

「もしかして、私の方から...襲っちゃって...た？」

▼早口で

「いや、でもでもでもでも100歩譲って私から迫ったとしてもよ？

あんたは拒否すれば良かったんじゃないの!？」

「私達姉弟なんだよ!？」

▼あなた、気まずい

▼気まずそうに

「...たしかに？ 抵抗できないようにガッツリ抑え込んだ記憶もかすかに...

ある...けど...

▼うなだれて

「いえ...しっかり...あります...

「でも、でもでも...でも...でもだよ！」

「ほら、その～色々とさ～やり方、あったんじゃないの？ いや、ホントに...

▼キャパを超えて

「う～...あああ！ 訳わかんない！」

▼ソファから降りて

▼あなたを見下ろしながら

「一旦、頭ん中整理してくるから！ あんたもさっさと着替えなさい！」

「あとママ達が返ってくる前に片付け、しておくこと！」

▼あなた、どうして自分が的な反応

▼コミカルな怒りで

「こっちは二日酔いだし、訳わかんなくてそれどころじゃないんだから！」

「経緯はどうあれ、私の体を好き勝手したあんたに拒否権なんてありません！」

「無し！ 無し！ とにかくナーシ！」

「じゃ、お願いねっ！」

▼ソファから離れようとして

▼振り向き

「あ、あとあんた...！」

▼緊張気味に

「昨日の事は誰にも...

▼何言ってんだって感じで

「言うわけないわよね...はあ...」

「とにかく、そういうことだから...一旦昨日のは一晩の過ちってことで...っ！」

「この話の続きは、お互いに落ち着いたらしましょ...」

▼強めに

「いいわね？ 以上、終わり！」

▼ソファから離れ、部屋を出ていき

▼ドア閉め

▼ドア越しに、絶叫

「あああああああっ！」

「何やってんだ〜〜〜っ！」

04.へべれけ?姉が、ベッドに潜り込んできた

▼夜、あなたが部屋で寝ていると、鈴菜が部屋に入ってくる

▼わざとらしく

「んん～ああ～」

「帰ってきたぞ～我が城へ～」

▼あなたを見つけてしめしめといった様子で

「はふう～」

「ふっ...んっ、んふう～♡」

▼バレバレの大根演技で

「んあ～今日もたくさんお酒飲んで、酔っ払っちゃったなー」

「早く寝ないとー」

「あー！ でも、着替えないといけないなー。面倒くさいなー」

「脱ぐだけで、いいかー。酔っ払ってるしー」

▼これで大丈夫だと言う感じで

「...ふう♡」

▼服を脱ぎ始める

「んっ...ふう、ふう...はあ...ふう...」

▼ベッドイン

「んっ、ふう～♡」

▼あなたに抱きつき

「んう～♡ 抱き枕～よね～？」

「うん、抱き枕、だ～♡ これは抱き枕～」

▼興奮しながら

「はあ、はあ...」

「んう、ふ～...んう...♡ はあ、はあ...」

▼体を押し付けて

「ん～？ ふう、はあ...はあ...あ～...なんかムラムラしてきちゃったな～」

「こうなったらーそうだなーどうしようかなー」

▼あなた、何してんの的な反応

▼ドキッとして

「ん～...あっ...！」

▼驚き

「あんた...起きて...っ!？」

▼焦りながら

「あー違う違う...」

▼とぼけた様子で

「こほん...私～酔っ払ってるからわかんないなー」

▼あなた、何してんの

▼そこは乗れよみたいな感じで

「むう...」

「な、なんで私が酔ってないってわかったのよ...」

「ま、いっか...」

▼起き上がり

「はあ...」

「せっかく、酔ったフリして...襲われようと思ったのに...」

▼あなた、何言ってるのみたいな感じ

▼コミカル怒り

「何よ～！ 別にいいでしょ～！」

▼逆ギレ気味に

「そもそもあんたが悪いんだからね！ あんな！ あんな...！」

▼「気持ちよく」と言おうとして、恥ずかしくなり

「き...く、されたら...さあ...」

▼照れキレ

「だから！ 気持ちよくされたら...またしたくなっちゃったって言ってんの！」

「あんただって、そうだったんじゃないの!？」

▼小声で

「あんな...たくさん出したんだし？」

▼あなた、気持ちよかったっちゃ気持ちよかった的な反応

▼調子にのって

「だよね？ ねっ！」

「だから...さ...」

▼あなたを誘う

「今...私は、酔ってる...から...」
「本当の本当に、酔ってる...から！」
「お酒のせいってことにして...しょ？」

▼顔を近づけ

「ふう...ふう...んっ、ちゅう♡」

▼あなた、我慢できずにキス、鈴葉驚きつつ嬉しそうに

「ん...！ ちゅう！ んちゅう...ちゅぱ、ちゅう...れるれる、れるっ...ちゅう♡」

▼キス、止まらず

「んんっ...！ んふっ、ちゅっ...れるれる、れろれろ...れるぷちゅっ...」
「ちゅうっ...ちゅう、ちゅぱ、ちゅぶ...ちゅむっ、
んふう、れるれるれるれる...♡」
「ちゅう...んふう...はあ、はあ...♡ れるれる、れりゆりゅっ...んう♡
やっぱいい...」
「はあ、ふう、ちゅう、ちゅう...ちゅぶっ、んちゆりゅちゅ...ちゅう...ちゅう♡」

▼キスしながら

「酔ってなくても...♡ んう♡ 気持ち...♡ ちゅう、ちゅうう♡」

▼キスを終えて

「ぷふう...はあ、はあ...ふう...ふう...♡」
「やっぱ...姉弟...だからなのかなあ...♡ んう...ふう...♡」
「お互いの気持ちいいとこ...わかるっていうか？ そんな感じ...するよねえ」

▼慌てて

「んっ...あ、勘違いしないでよ？
別に恋愛感情とか、そういうのじゃないから！」
「あくまで、気持ちいいからやってるってだけ！」
「あんたもさ...気持ちいいんならお互いに得だし、別にいいでしょ？」
「だから、これは...ただの性欲発散のためだけってことで...」
「ふう、ふう...ほら、続き...しましょ？」

▼ペロチュー再開

「んっ...ちゅう、ちゅう...ちゅう、れるれる♡
ふう、ちゅぶ、ちゅりゅりゅ...♡」
「んふう、ふう...ちゅう、ちゅう...んう♡ ちゅう、ちゅう...れるれる...」

▼興奮しながらキス継続

「れろれろ、れおれおれお...♡ れりゆれちゅっ...んう♡ ふう...♡」

「ちゅぶ、ちゅぶ...んちゅう、ちゅぷう、はあ、ふう...♡

ちゅう、ちゅう...んう♡」

「んっ...ちゅう、ちゅう...ちゅう...♡ ちゅう、ちゅううう...♡」

▼キスを終えて

「ふはあ...はあ、はあ...はあ...」

▼あなた、キス好きなの的な反応

「ん〜？ キス、長かった？」

▼キスが好きなのがバレて、恥ずかしそうに

「いや〜...これ、癖になってるっていうか...その...変？」

「いい！ 別に答えなくて！」

「というか指摘されると、変な感じになるし...！」

▼あなたと目があい、そらして

「んっ...！」

「な、なんでもない...！」

「そんなことよりも、さ...」

▼あなたを押し倒し

「んっ...！」

▼股間をさすりながら

▼得意げに

「あんたのここ、さっきからずっと当たってるんだけど？」

「姉に欲情...しちゃってるんだ〜♡」

「ふう、ふう...なんかずっと硬いと気になるしい...」

「手で...やってあげるわ」

「だからさ...ほら、脱いで脱いで？」

▼ズボン脱ぎ

「ふう...ふう...んっ...」

「うわ〜っ...昨日は正直全然印象残ってなかったんだけど...」

「ここ...こんな感じになるのね...」

▼手コキをはじめて

「ふう、ふう...」

「どう...こんな感じで...気持ちいい？」

「ふう、はあ...んっ、冷静に考えると、何してんのって感じだけど...」

「ま、弟の世話してるって考えればいっか...」

▼手コキしながら、あなたの様子を伺い

「はあ、はあ...ふう...ふう...」

「んっ...随分、気持ちよさそーじゃない」

▼得意げに

「ま、私の手にかかれば...これくらい...当然よね...」

「ふう...♡ お汁まで、出しちゃって...さあ♡」

「はあ、はあ...んっ、ふふっ...なら、もっと満足させて、しんぜよー」

▼手コキしたままあなたの顔近くまで移動して

「ふう、ふう...ふう〜♡」

▼耳に息を吹きかけからのキス

「ふう〜」

「んちゅっ、ちゅう...ちゅう...んふう♡」

「れる、れる〜...れるれる...♡」

「やっぱり...耳、敏感じゃん♡」

「さっきからずーっと、耳赤くしてさあ〜なんだろうって思ってたの...」

「私の息が、当たってたから...よね？」

「むふふ...まあ、どうでもいいけどさー」

▼囁くように

「私もただあんたの気持ちよくしてるだけじゃ、暇だし？ してあげるわよ...」

▼内緒話みたいな感じで

「耳、舐め...♡」

▼耳舐め開始

「んっ、ふうふう...れる、れるっ...♡」

「れりゅ〜、れりゅ、れりゅりゅ〜、れりゅりゅりゅ、

るちゅ、れおれろれ〜ろ...」

「んちゅう、ちゅう...れるれる...れろ、れろお〜...ふう、ふう...んふふ♡」

▼楽しそうに

「はあ、はあ...♡ いい反応、返してくれんじゃん？」

「攻めがい...あるかも♡」

「あ、でもあんまり大きな声は出さないでよ〜？

ママ達起きたら大変だから...さ」

「ちゃんと我慢して...ね」

▼耳舐め

「んちゅう、ちゅう...ちゅう...ちゅぶっ、ちゅっ...ちゅうう♡」

「ふう、ふう...れろ、れろ、れるう...♡

れる、れる、れる、れる、れる、れる♡」

▼耳内で激しく舌を動かし

「んふ、れりゅ、れろ、れろ、れるれるれおれおれるれりゅれる
れりゅれるれりゅ...」
「れるれるれおれろれろれりゅれるれりゅりゅる...♡ ふう...♡」

▼息継ぎして

「ふう...♡ はあ、はあ...♡」

▼耳舐め再開

「れりゅれりゅれるる、れりゅれりゅれろれろれろれろ！」
「れりゅれゅ、んっ♡ れりゅれりゅれろれろれろれろれゅれりゅ...」
「れろれろれろれろれりゅれろれろれおれおれるれるれろれりゅ
れりゅりゅっ...！」
「れるう〜〜っ...ぷふあ...♡」

▼耳舐めを終えて

「ふう...ふう...♡ んふふ、どーだ♡」
「それにしてもお...もう、これ...準備万端って感じじゃない？」
「ふう、ふう...んっ...私も、もう耳舐め過ぎて疲れたし...」

▼囁き

「そろそろ...ね？」

▼あなたの反応を待ち

「ふう...ふう...はあ...ふう...」

▼あなた、したい的な発言

▼嬉しそうに

「ん...うん♡」

▼体勢を整えようとしたところで

「はあ、はあ...」

▼あなた、鈴菜を下にして

「あっ...♡」

▼期待した感じで

「なーに？ 今日のはあの方から、してくれるの？」
「耳舐めのお礼ってこと？」
「んふ〜♡ いい心がけじゃない...」

▼じれったそうに下を脱ぎ

「はあ、はあ...ふう...ふう...」

「じゃあ、んっ...もう、準備はできちゃってるから、さあ〜？」

「んっ...挿れて...早く...挿れてえ...」

「あっ...♡」

「ふう、ふう...来て？」

▼あなた、挿入

▼鈴菜、感じて

「あっ...！ んあ！ 来たあああ〜っ♡」

▼感じて&興奮して

「はあ、はあ...はあ...はあ...やっぱり、これ...いいわあ...♡」

「んふう...こんないいもん持ってるなんて、

本当...もっと早く知っとけば良かった...」

「んっ...♡ ほら、早く動きなさいよ〜」

「じれったいんだか...」

▼セリフ途中でピストン開始

▼感じつつ

「らっ...ああっ！ んっ！ んっああっ！」

▼ガッツリ喘ぎ

「あっ...んう！ あっ...ああっ！ んっ...！ んうああ...！」

▼あなた、思わず唇で塞ぐ

「んっ！ ちゅっ、ちゅう...♡

んふう、ふっ！ ちゅっ...ちゅう...んう♡ ちゅう...」

「ちゅぶっ、んふう、ちゅう、ちゅっ...んふっ、ちゅう...ちゅぶう...ふうう♡」

▼キスを終えて

「んふう、ふう...はあ、はあ...♡ んっ...ごめ...声、出しちゃって...」

「静かにしないとって...んう♡ 言ったの、私なのに...さあ...」

「んっ、ふう、んっ、ふうう...もう、大丈夫...だから、声...我慢、できるから...」

「あんたは、好きなように、動きな？」

▼鈴菜、声を出さないように我慢しつつ

「はあ、あっ...あふっ、ふう...んっ...はあ、はう...んう...」

▼あなた、動きを変える

▼また我慢できなくなりそうになり

「あっ！ んっ...んんう！」

「ふう、はあ...あっ...んう、あっ...ああっ...！」

「ま、待って...これ、んう！ やっ、ばあ...っ...！」

▼今度は鈴菜からキス

「んっ！ あっ...！ ん、ちゅう...！」

▼喘ぎつつキス

「んうう♡ ちゅう、ちゅぶっ...あっ...んちゅう...

ちゅっ、ちゅりゅう、んっ...あっ...♡」

「はあ、あっ...ちゅう、ちゅぶ、れるれる、れろれる、

れるむちゅう...んう♡ ちゅぶう...

「ちゅううう...んっふう、ちゅう、ちゅぶ、んう...んちゅう、ちゅう...

▼あなた、キスを終わらそうとするが

「んう！ あっ...やっ...♡」

▼鈴菜、再びあなたにキス

「んちゅう、ちゅう...らめっ...れるれる、はっ...ちゅう、んっ...

▼喘ぎ声が出そうになるたびに、キスで口を塞ぎながら

「きしゅ、やめない...れえ♡ ちゅっ、ちゅうう...れるれる、れろちゅう...

「んっ！ んう！ 声、でちゃ...んう♡ ちゅうう...

我慢、んふう、ちゅう...できない...からあ♡」

「ちゅう、ちゅぱっ...ちゅーして、んっ...れるれる、口、ふしやい...でえ♡」

▼とろけきった感じで

「はふうーっ...ふうーっ...んっ...ふう、おね...があい♡」

▼あなた、鈴菜の要望に応じて、キスしながらピストン再開

「んんっ！ んう、ちゅっ...ちゅうう♡ ちゅうう...はふう、んっ♡

ちゅう、ちゅううう♡」

「んっ、ちゅう、れるれる、れるれるれるれるう...はふう、んう♡

れるれるれるちゅう...

「ちゅぶっ、ちゅぶう...ちゅぱちゅぱあ...はあ、ふう...ちゅっ、

ちゅう...ちゅぶちゅる...

「んちゅう、ちゅっ...んんう！ んう♡ んう、ちゅっ、ちゅう♡

んっ...んんんう♡」

▼キスしながら絶頂

「んうう...んっ！ ちゅう、ちゅううう...はあ、ふう...！

んっ...ちゅう、んんんんう！」

▼イキながらもキスを継続して

「んう...♡ ちゅぶ、ちゅぶ、ちゅば...ちゅう...ちゅっ...ちゅう...♡」

▼一度口を離し

「んう♡ はあ、はあ...はあ...はあ...♡」

「んっ...わかった？ イッちやったの...はは...♡」

「んっ、でも、止めること、ないのに...はあ、ふう...」

「あんたは、まだイッてないでしょ？」

「だからさ...ほら、あんたもイクまで、動きなさいよ...」

「んっ...2人で気持ちよくなってこそ...でしょ？」

「はあ、ふう...私も気持ちいいしさ...」

「ほら、口、手で抑えてるから...好きなように、動いて？」

▼手で口を押さえながら期待するように

「ふう～ふう～...♡」

▼あなた、本気ピストン開始

▼激しさに驚きつつ、感じて

「んっ...!? ふっ...んう♡ ふうう！」

「ふっ！ んう！ ふう！ ふっ！ んう！ んっ！ ふっ！ んう！」

「んう♡ んう！ ふう♡ ふっ！ ふう！ はっ！ ふう...んんっ！」

「んう、んくっ！ ふう...んんう！ んんっ！ んう、ふう...！」

▼必死に声が漏れるのを我慢している状態

「んんう♡ んう、ふーっ！ ふーっ！ ふーうう♡ ふっ...ふう♡」

▼あなたはそんな鈴菜の手をどけて、キスをする

▼驚きつつ、受け入れて

「んっ...あっ！ やっ...声...んう...!?」

「んう！ んちゅう、ちゅう...んふう♡ んっ♡

ちゅぶっ...ちゅりゅれるう...ふう♡」

「んう♡ ちゅう、ちゅうっ...♡ れるれる、れるれる...んう♡

ちゅう...んちゅう...」

▼感度が高まりつつ

「ふーっ...ふーっ...んっ！ んう♡ んふう、ちゅう、ちゅぶっ...ちゅぶう...♡」

▼あなたも限界が近そうだと悟り

「んう、はっ...イキソ...なのお♡ んう♡ ちゅう、ちゅう...」

▼いーよ♡→キス→出して～♡という感じで

「ん～ん♡ ちゅう、れるれる、んんんう～♡」

「んう、んちゅう、ちゅう、れるれる、れるれるちゅぶれる...♡」

▼鈴菜再び絶頂が近づき

「んう！ んっ！ ちゅっ...ちゅう♡ んっ、んう、ちゅぷっ、
ちゅぶう...んあ...♡」

▼キスしながら絶頂

「んっ！ ちゅっ、ちゅう...ちゅううう♡ んっ、ふうううう～っ！」

▼キスしながら膣内射精を受け入れる

「んうう、ちゅう、ちゅぶっ、ちゅるる、れる、れりゅう...ちゅっ、
ちゅううう♡」

▼キスを終えて

「んっ、ふう...♡ はあ、はあ、はあ...はあっ...はああ...♡」

▼嬉しそうに

「ふう、ふう...ふふ、あんたも...キス、気に入ってたんだあ♡ はあはあ...」

「はあ、ふう...そうじゃなきゃ、最後はキスしながら、イクなんて、
しないでしょ？」

「ふふっ...そういうところも姉弟っぽいのかも...ねえ～」

「まあ、いつか...」

「いっぱい気持ちよくしてくれて、ありがと」

「おかげでストレスとかも取れた気がするし～」

「今日はぐっすり眠れそうだわ～」

▼起き上がり

「んっ、それじゃあ...このまま寝落ちしたらやばいし～」

「寝る前のお酒も、飲まなきゃだから～」

「部屋、戻るね」

▼ベッドから降りて

「んっ、これから、お互いにムラムラしたらさあ...しよーよ」

▼自分で言って冷静になり

「って言っても、毎日はやばいから...」

▼妙案を思いついたという感じで

「そうだ！ 今度、ママ達しばらく家を留守にするじゃない？

だから、それまでエッチは我慢して...」

「その後、たくさん...しない？ そしたら声抑える必要もないしさ～」

「んっ、決定！ そういうことだから...」

▼得意げに

「しっかり禁欲...しとくんだぞ〜！」

05.ほろ酔い姉と、性欲ぶつける激しめエッチ

▼あなた、姉の部屋をノック

▼あなたを顔を見て

「んっ...」

「ママ達...旅行行った？」

「ん、じゃあ...入ってよ...」

▼待ってましたという感じで

「やあ～長かったわあ...この一週間...」

▼あなた、部屋においてある酒に気づき

▼自然な感じで

「ん？ え、これ...？」

「気分転換のお酒でしょ。禁欲のストレス...

なんとかしないとイケなかったんだから...」

「それよりも...さ...」

▼あなたに近づき

▼発情した様子で

「ふう、ふう...あんたはこの1週間、辛くなかったわけ？」

「私は...んっ、もう限界っていうか...限界超えてて...」

「早く、したいんだけど...」

▼顔を近づけ

「ふう、ふう...」

▼キス

「んっ...！ ちゅっ、ちゅうう♡」

「ちゅぶ、ちゅりゅ、れるれる、れるれるちゅう...！」

▼夢中でしゃぶりつく感じで

「んふう...ちゅっ、ちゅぶ、んちゅう、ちゅうう♡ はあ、はあ！

んちゅうれるれる...」

▼キスしながら下を脱ぎ

「んちゅう、ちゅう...ちゅぶっ、んっ！ んふう...♡ んっ、ちゅう、ぷはあ...」

▼キスを終えて

「ふう、ふう...んっ...♡」

▼興奮した様子で

「ほーら、チューしながら、下...脱いだんだから、さあ〜」

▼ベッドに横になり

「ん...早く、挿れてよ〜？」

「あんたのも、随分溜まってるみたい...だし〜？」

「早く、早く〜♡」

▼あなた、移動

▼期待した様子であなたを見て

「んふう、ふう...ふう...」

▼あなた、ズボンを脱ぎ

▼あなたの股間を見て

「ふう...はあ...ふう...♡」

▼あなた、挿入体勢に入る

▼期待しながら

「はあ、はあ...んふっ...やっぱ、いいわあ...♡」

▼あなた、挿入しようとしたところで...

「んっ...あ、ちょっと待って...」

「挿れる時はさ〜...ちゅ〜しながら、挿れて？」

「そっちの方が、絶対気持ちいいから...♡」

▼あなた、鈴葉に覆いかぶさり

▼キス開始

「んっ、ちゅう、ちゅう...ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅう...

れるれる、れろれりゅう...♡」

▼キスしながら挿入

「れるう...んっ！ んんう♡ んう、ふう、ふう...ちゅう、ちゅうう♡」

▼挿入で感じながら

「はあ、ふう...んう♡ はあ、はあっ...んう♡」

「やっぱ、これ...キク...わあ♡」

「チューもお...おちんちん、もお...♡ はあ、はあ...最高〜っ♡」

▼キス再開

「んう、ふう、ふう...ちゅう、ちゅううう♡」

「ぷふう...」

「んっ...もう、限界だから...さあ、ほら...動いて？」

▼あなた、至近距離でピストン開始

▼最初からしっかり感じて・喘ぎ声を我慢せず

「んっ！ あっ...！ んあ！ んう！ んっ！ ああっ！ あっ！ んっ！
んう！」

「ああっ！ あっ！ んあ！ ああ！ はっ！ ああ！ あっ！ んう！
あっ...はあっ！」

「はあ！ ああっ！ んう！ そこ、いいッ...！ んっ！ あっ！ あっ！
あんっ！」

「んう！ はあ！ ああ、はあ...はあ...あああっ！ あっ！ んあ、あああっ！」

▼感じながら

「はあ！ ふうっ...んう！ やっぱ...これ、声出すとっ...んう！」

「体が気持ちいいんだってこと...んあ！ ああ！ わかってえ...！
ああっ！ あっ！ んんう！」

「前よりも...んあ！ あああっ！ すぐ...すぐ...んあっ！ んっ...」

▼絶頂

「いっぐっ...んう！ あっ...あふあ、あああああっ！」

「んううう...！ あっ...ああああ♡」

「はあ、はあ...ああ...はあ、ふう...んう！ んっ！」

▼あなた、動きを変えて

「んう...なによ一つ...♡ いーでしょ一つ...ひとりで、イツちやっても、さあ...」

「あんたの...んあ！ ああっ、はあ、はあ...気持ちいいんだもん...！」

「おまんこのなかあ、きもちーとこ、全部、ゾリゾリって...してきて、さあ...♡」

「こんなの、イクなって方が...無理、でしょっ...！」

▼あなた、ピストン再開

「んっ、あっ！ ああっ！」

「あっ...ちょっ...んう！ やっ...そんな、急に激しくっ...あっ！

あっ！ あっ！」

「やっぱっ、いっ...てええ♡ イッた、ばかりなのっ...にい...！」

▼大きめ喘ぎ

「ああっ！ あんっ！ あっ！ あああっ！ ああ！ んう...うう...♡」
「はあ、ああっ！ んっ！ あっ！ あっ！ あああ！ んっ...あああ！」
「こんな、されたらあ...ああっ！ あふっ！ ふう、ふう...んう！
ああっ！ ああう！」
「あっ...んう！ そこ、らめっ...あっ！ あっ！
きもち、良くてえ...んう！ ああう！」
「ああ、ふーっ！ ふーっ！ また、すぐ...んう！」

▼絶頂

「いっ！ いっ！ んう！ いっ...くううっ...！」
「んう！ ああ！ はあ、あああっ！ んあ！ あっ...んう！」
「あ、っ、まだ、イってるのっ...にい...！ どうして、止めない、のよおっ...！」

▼余裕がない感じで

「ああっ！ んあ！ はあーはあっ！ んう！ こんなんされたらっ...！」
「ほんと、おっ...！ んう！ はあ、あっ...ああっ！ んう！」
「やばい、ってえ...！ あああ！ んあ、あっ、あっ...！」

▼感じながら喋ってるので気持ちいいのを我慢しつつ

「ふうっ...ふうっ！ あんたは、こんだけ喘がせられて？
んう！ はあ、はあ...」
「満足、だろうけど...さあ...！ ふう、ふう...んう、んうううっ！」
「やっ、ここまで、気持ちよくされてえ...ああ、はあっ...！ んあ！ あっ...！」
「あっ...んう！ 変な声、出そうになる、しい...は一、はふう、ふう...んっ！
んんぐう...！」

▼喘ぎ声を我慢できず

「ふう、ふう...んう！ ああっ！ ああ！ あっ！ あっ！ んあ！
ああっ！」
「あっ！ んあ！ ああっ！ あっ！ ああっ！ んああっ！」
「んっ、だめ...これ以上、んあ！ はあ、はああっ！ は、本当...んあ！
ああ！」
「ふう、ふう...んう、あんたは気分良くなってるみたいだけど...さあ...
はあ、はあ...はあ...ああっ！」

▼鈴菜、あなたの首を掴み、引き寄せる

「なまいつ...きい...っ♡」

▼感じながらキス

「んちゅう♡ ちゅっ、ちゅばあ♡ ちゅっ！ ちゅう！ んちゅう♡」
「んああ...♡ れろれろ、れろれりゅ、れりゅう、ちゅう♡」
「んちゅうう♡ ぷふう、はあ、はあ...♡ れるれる、れろれりゅう♡ んう♡」

▼キスしながら

「んああ？ んちゅう、これならあ...♡ んう♡ ちゅう、ちゅう...変な声...」

「ちゅぶっ、ちゅりゅりゅ、聞かせなくてすむしい？ んちゅう♡

ちゅ、れりゅれるう...」

「んう♡ はふう♡ ちゅう、ちゅぶっ、ちゅりゅりゅ...♡

れるれるちゅぶちゅばあ...♡」

▼あなた、ピストン速度を早めて

「んう♡ んっ！ んっ！ れりゅれりゅ、あんたもお...♡ んう♡

好きでしょ...♡」

▼激しめベロチュー

「れるれる、れろれりゅ、ちゅぶぶふうう...ちゅっ、ちゅふうう♡」

▼あなたの股間が大きくなったのを感じて

「んっ！ あっ♡ んう！ はあ、はあ、ちゅっ...んう！ ちゅっ、ちゅふう♡」

「はっ...んう！ ああ！ んっ、ちよっとお...♡ はあ！ ああああ♡」

▼あなたの耳元に顔を移動させ、囁き

「はあ、はあ...んう！ チューしたら、んう！

すぐ、イキそうになってる...じゃん！ はっ！ んう！」

「んっ...いい、よお...出しちゃいなあ？」

「ちゅ～しながらのセックス、気持ちいいもんねえ...はあ、はあ...あっ！

あっ！」

「んう！ 私も、だしい♡ はあ、ああっ！ ちゅ～しながら、イツちゃお？」

▼顔を正面に移動

「ふう、ふうっ！ ふう...！ ふう...！」

▼ベロチュー

「んっ！ んう！ ちゅっ！ ちゅう！ れるれる、れるちゅっ、ちゅうう♡」

「ちゅぶっ、ちゅう！ んちゅう！ ちゅばあ、はあ、んう！

ちゅうれりゅれりゅれるれろ...♡」

▼感じながらベロチュー

「んう、んふう！ ふう！ んっ！ んちゅ、れりゅれる...ふう、ふう...♡

んう！」

▼いきゅ＝イク

「んちゅうりゅれりゅ、んああ...♡ いきゅっ...いちゅう...♡」

「んふう、ふう、ちゅう、ちゅう、ちゅばちゅりゅ、れるれるれろれりゅれる...」

「んふうっ！ ふっ！ んう！ ちゅっ、ちゅぶう、ちゅうう...

んんんんっ！」

▼2人同時に絶頂

▼キスしながら絶頂

「んう...ちゅっ、んんんんう！」

▼中で精液を受け止めながら

「んう...んう...♡ ちゅう、ちゅぶ、ちゅう...れるれる...ふうう...
れろれろ、れりゅちゅう...♡」

▼キスを終えて

「んんう...♡ ぷふう...♡」

▼満足気に

「はあ、はあ...！ すっごい、出すじゃん...♡」
「んう、わかるよ？ 中...あんたのでいっぱいにされちゃってるの...」

▼あなた、起き上がり

「はあ、はあ...ふう、んう...♡」

▼抜き

「んっ...！ はあ、はああ...♡」

▼精液が垂れて

「ほらね？ こーんなに...♡」
「んっ？ なんだー？ まだ、物足りないって顔してるな〜？」
「しょうがない、やつめえ...♡」

▼鈴菜、起き上がり

「はあ、はあ...はあ...」
「そしたら、姉直々に...復活させて、しんぜよう...！」
「なんて...ね♡」

▼鈴菜、顔をあなたの股間の前に移動させて

「はあ、はあ...はあ...ふう...」

▼あなたの股間の匂いを嗅ぎ

「んっ...クンクン...♡ んう！」
「これ...あんたの精液と、私の匂い...まじってる...♡」
「くんくん、んう...変わった匂い、だけど...♡
ちよっとだけ、癖に...なるかも♡」

▼嗅ぐのに夢中になり

「すんすん...んう♡ はあ、はあ...それにい...嗅いでるとお〜♡

興奮してきてえ...」

「はあ、はあ...すんすんすんすん...んう♡ はあ〜♡」

▼チンキス

「んっ...ちゅう♡」

「ふふ...♡」

▼連続チンキス

「ちゅっ、ちゅう...ちゅっ...ちゅうう...♡」

「んっ...ピクってしたあ〜♡ 気持ちいいんじゃない？」

「じゃあ、このままあ...はあ〜」

▼亀頭舐め開始

「ちゅっ、ちゅぷ...ちゅう、ちゅりゅ...ちゅう、ちゅぷ、ちゅぷ...

ちゅぷ、ちゅぱあ...」

「ちゅるれる、れろれる、れりゅちゅっ...んちゅっ、ちゅっ...ちゅう...」

「んふう♡ はあ、はあ...んちゅう、ちゅう...ちゅぶっ、ちゅぶ、

ちゅぶちゅぽ...」

「はふう、ふう...んっ...ここ、いいの？ ちゅこ、ちゅこ、ちゅぷ、

ちゅぷ...んふう...」

「はあ、はあ...♡ んちゅう、ちゅう、ちゅううう...んちゅう、

ぷあ...はあ、ふう...」

▼興奮しつつ、フェラの準備

「ふーっ、ふーっ...♡」

▼あなたの性器をくわえ始めて

「んっ...じゅりゅりゅう...♡」

「んふう、ぐぷ、ぐぷ、ぐぽう...ぷぷう...んふう、じゅぶ、

じゅぽ、じゅぶじゅりゅ...」

「じゅぶじゅぶ、じゅぽ、じゅぽ、じゅっぽ、じゅっぷ、じゅりゅぶぽ

...ぶぽぽ...」

▼激しめフェラ開始

「んふう、ふう...♡ じゅぶ、じゅぽ、じゅぶじゅりゅじゅぶじゅぶ...」

「じゅっぷ、じゅっぽ、じゅぶ、じゅっぽ、じゅぽじゅぶぽっぽ、ぶぽぽぽ...！」

「じゅぶじゅっぷ、じゅぽじゅぶ、じゅりゅじゅぶっ...じゅぶう...っ！

んっ...！」

「んう♡ れるれるれろれぶっ...んぶう、じゅぶ、じゅりゅ、じゅぶ、

じゅぶぶう...♡」

▼フェラ終了

「んっ...ふはあ...」

「はあ、はあ...はあ...ふう...♡ んふう...まーた元気になった、ねえ...♡」

▼体勢を元に戻して

「それじゃあ...さあ...♡」

「ふう、ふう...2回戦、はじめちゃお？」

「ふう、ふう...あ、ちょい待って...」

▼酒を飲み

「んぐんぐ...んぐ...ふはあ...♡」

「ん、いーでしょ〜♡ また体動かすんだから、
水分ほきゅーよ、水分ほきゅー♡」

▼改めて、横になり

「ほらー来な来な〜♡ 元気になった、あんたのおちんぽでえ〜」

「またあ〜私の中を...堪能して〜」

▼あなた、近づき

「ふう...はあ...」

▼挿入体勢

「んっ...！ んう♡」

▼挿入

「はあ、はあ...ふう...んう！」

▼感じながら

「2回目でも、やっぱり...いいじゃ〜ん♡」

「はあはあ...んっ、あんたの形覚えちゃったのかなあ...密着してるっていうかあ？ ふう、ふう...」

「さっきより、気持ちいいかも...♡」

▼あなた、動き始め

▼感じながら

「んっ！ あっ！ んあ！ ああ！」

「はあ、ふう...んう！ あう！ んあ！ ああっ！ んっ！ うっ！

んう！ ああ！」

「えあっ...んうう、おおっ...！ んう！ ふう...ぐっ...んう！

はあ、ああっ！ んう！」

▼喋りながら、気持ちいいのが登ってきて

「やっぱり、やっぱあい...♡ これえ...さっきよりっ、もおおっ...！」

「きもち...っ...！ いい...♡」

「んあ、ああっ！ ああ！ あふっ！ んう！ ふう、んう！ ああっ！ あっ！ んあ！ あっあ
あっ！」

▼喘ぎながらあなたを抱き寄せ

「はあ、ふう...んう！ んぐっ...んおっ...んう！ ふう...ふうっ！

ふう！ はっ、はあ〜っ！」

▼キス

「んっ、んふう、ちゅっ...ちゅぶう、ちゅる、れる...れるれる...れろちゅう、
ちゅぶっ...！」

「ちゅう、ちゅう、ちゅぶっ、れるれる...れろれりゅ、れりゅちゅう...

んう、んちゅう...！ ちゅぶあ...！」

▼キスを終えようとするも

「はあ、はあっ！ んう！ んう、らめっ...口、離さないでえ」

▼再度キス

「んう、ちゅっ、ちゅう...れるれる...れろれりゅ、れるちゅう...♡」

「変な声、でてえ...んう！ ちゅっ、ちゅうう...恥ずかしい...からあ♡」

「はっ！ んう！ ああっ！ んうう！ れるれる、れろちゅう♡

ちゅぶ、ちゅりゅりゅ...

「姉弟でもっ...んう！ 恥ずかしいもんは...恥ずかしいんだって、のお...♡」

「はあ、はあ...ん！ あっ、あああ...んう！ ああ！ んう！ んう！」

「んちゅう、ちゅっ...ちゅう、んっ、んんん〜っ！ んふう、はあ...

「れるれる...んう、くうっ...んう！ ふう、れるれる...れろれる...んう...んっ！

んう！」

「んうう！ れるれる、んぐう...んっ、んうううっ！

れるれる、ちゅぶうちゅる...

▼軽イキ

「んっ...んううううっ！」

▼息あらめ

「ん...ふう、はあ、ふう...ふうーっ...んう！」

「ん...イッた、イッたけどお...ん、気にせず動きなさいよ〜っ♡」

「ふう、ふう...姉を気遣うなんて、そんなこと...はあ、普段、しないでしょ〜」

「ほらほら...♡ もっともっと、私を...気持ち良くして...

「一緒に、気持ちよく、なりましょ？」

「んっ...あっ！ んうう！ んう！」

▼あなた、動きを激しくして

▼ややオホ

「んう！ おっ！ んお！ おっ！ おっ！ んう！」

「んう、ふう、ふう...こ、らあ...♡ また、変な声、出ちゃった...じゃんう...！」

▼声が漏れるのを我慢しながら

「んっ！ おおっ...んう！ ほっ...んう！ はあ、ほっ...んっ...ぐううっ！」

「ふう、ふう...んう！ はあっ！ あっ...んっ、んうううっ...！」

▼声が漏れそうになったのでベロチュー

「ふう、ふっ...！ ちゅっ、ちゅうう♡」

▼喘ぎつつもキス

「んちゅう、ちゅう...んんう♡ れるれる、んうっ、んっ、んっ！

れるれる、れろお...ちゅっ！」

「んんう、ふっ...んぶう、ちゅう、んじゅじゅぶう...れろれろお...

れるれるうんふう...ふう♡」

▼一回息継ぎして、

「はあ、はあ...んっ、あっ！ ちゅう、ちゅぷ、れるれる...れろちゅうう...♡」

▼口を離して

「んっ...ふうう...これ、やっぱいいいい...」

「キスしながら、セックスするのお...はあ、はあ...んう！

んう、おおっ...！ いい...♡」

「あんたも、好き...でしょおっ...んう！ これ、これえ...♡」

「はあ、はあ...んんう！ んっ！ 2回目とは思えないくらい...んう！」

「固くなってえ...おっ...んう！ ふう、ふう...奥...突いてくる、しい...♡」

「んう...♡ ふう、もう、出したい出したい～ってなってるの、

わかっちゃうもんっ...♡」

▼顔を耳元まで移動させ

「んっ！ んう、ふーっ！ ふーっ！ ああっ...はあ、はあ...ふう、んう...！」

▼耳元で

「ふう、んっ！　ふう、ふうう...んう、はあ、はあ...はあ...んう！」
「ほらほら、溜まってるのお...全部、全部吐き出しちゃいなさいよお...！」
「ふう、んう！　はあ、はあ...んう、おお...ふう、ふっ...んう！」
「中に...中に、出してえ...♡」

▼あなた、そのまま突く

「んう、んっ！　おっ...！　ああっ...んうう！　おお...んう！」
「んう、はあ、あああっ...！　はっ...あっ！　んあ！　あっ...！　んう！」
「んふうーんふう～...！　ふう！　はあ、はあ...あっ...！　んあ！
あっ！　ああ！　ん！」
「キタ...キタキタ、来たあ...♡　膨らんで...出す準備、してるうつ...！」
「んう！　はあ、はあ...！　ああ！　っう...んう！」

▼あなたを抱き寄せ

「ふう一つ、ふ一つ...！　んう、うん、うん、出して、出して出して出して...！」
「あんたの精液...全部、全部私の中に、注い...でえっ...！」
「んう！　おお...おっ、おっ、おお...んう！　んんううっ！」
「私も...んう、大きいの、来る...イク...イク...んう、イクう...！」

▼大きい絶頂が近づき

「んうう！　ああ、おっ...ああ、んお、ああっ、んんんんんんううう～っ！」

▼深い絶頂

「んう、うう、おおおおおお～っ...！　ほおおお～～～っ！」

▼2人同時に絶頂

▼精液を受け止めながら

「んう...ほお、はあ、はあ、はあ...はあ...んう...」
「中、すごい...量...んう...ふうふう、ふう...んう...」

▼不満げに

「はあ、あんた...なんで最後キスしてくれないのよお...」
「すごい変な声...出ちゃったじゃん...」
「ふう、はあ...まあ、いいんだけどさ...」
「んっ、でも姉に恥かかせたバツは受けてもらわないとね...」
「今日の晩ごはんは、あんたのおごり！　反論は聞きません」
「あとは～」
「隙あり...！」

▼あなたを引き寄せて

▼不意打ちキス

「んちゅっ、ちゅぷ、れるれる、れるちゅう...んちゅう、ちゅぷ...れるれる...」

「ちゅう、ちゅう...んちゅう...ふう、はあ...ふう...ちゅううう...♡」

「ぷふう...」

▼キスを終えて

「んっ、これくらいで許してあげる」

「いーでしょ、キス...ハマっちゃったんだもん」

「これからは私が望んだらいつでも、チュー、しなさいよー」

▼あなた、肯定的な反応

▼少しだけ嬉しそうに

「ん...約束だから...ね？」

06.エッチ後の姉と、おつかれ乾杯

▼居酒屋に来たあなた達、乾杯
「かんぱ〜い！」

▼一気飲み
「んぐ、んぐ、んぐ、んぐ、んぐ、んぐっ...んっ、んう...♡」

▼気持ちよさそうに
「ふはあ〜っ！」
「体を動かした後は〜やっぱりビールよねえ〜♡」

▼店員さんに声をかけて
「あ、すみませーん！ 生中おかわり〜っ！ 2つで〜！」

▼残りのビールを飲み
「んぐ、んぐっ...はあ〜...生き返る〜♡」
「このお店〜よく使ってるのよね〜」
「お酒も種類豊富だし〜？ 何よりつまみがおいしいのよ〜」

▼得意げに
「ほんと、お通しからレベル高いからね〜」

▼ビールが届き
「あっ、は〜い。いただきま〜す」
「あ、両方ともこっちにおいでくださいー」

▼店員さんに彼氏か聞かれて
「ん...？ いやいや、違いますよ〜彼氏じゃないですって〜」
「弟ですよ。おとうと〜」
「今親が旅行に出てるんで、飲みに来たんです〜」

▼店員さん、いい相手ができたって聞いたからの話

▼驚き
「ん...え？」

▼気まずそうに
「あっ、ははは...私、そんなこと言ってましたっけ？」
「んーどうだろうな〜、酔っ払ってたからな〜？ 記憶曖昧かも〜？」
「ま、これは関係ないんで！ ホント、ただの弟なんで！」

▼同意を求めるように
「ね？」

▼店員さんの方を向き

「んっ、まあその話はまた今度にしましょ～」

▼気まずそうに笑い

「ははは…」

▼あなたの方を向いて

「ん？ 何よ～？ 今の話？」

「べ、別に…最近いいことあったって、話してただけだって…」

▼小声で

「んっ…まあ、あんたのこと、ではあるけど…」

▼話を誤魔化して

「そんなことよりも、ほらほら！ どんどん飲んで、どんどん食べましょ！」

「あんたのおごりなんだから、たくさん食べないと損よ？」

「これからたっかい日本酒も頼むんだし～」

▼あなた、聞いてない的な反応

「いでしょ！ たまには姉を気遣えっての…」

「そういうことだから…」

▼ビールを飲み

「んぐ、んぐっ…んっ…んっ！ んっ…ごくっ…！ ふう～っ！」

▼上機嫌

「今日は飛ばしていくからね～♡」

07.上機嫌な姉と、密着ペロチュー交尾

▼飲み終わり、へべれけな鈴菜

▼上機嫌で

「ん〜♪ たっだいま〜」

「はう〜ついたついた〜♪」

「弟よ〜姉の送迎、大変ご苦労！」

▼甘えた感じで

「そこのソファーまで運んでくれたら、任務は完了だぞ〜♡」

▼あなた、鈴菜をソファーまで運ぶ

「んっ〜んん〜♡」

▼一息

「はあ、ふう…」

▼鈴菜、酔いさましの水を飲み

「んっ、んぐっ♡ んぐっ♡ んう♡ んっ♡ ふう〜♡」

「は〜…たくさん飲んだ後のお水ってえ、最高〜♡」

「おしゃけじゃないのに、こんな美味しいなんて〜」

▼酔っ払って

「やっぱり人間は水と共存してるのらね〜♡ えへへ〜…」

「ん〜？ ほらほら、あんたも座りなさい〜」

▼ソファを叩きながら

「ここ〜隣〜！」

▼あなた、座る

「はあ、はあ…ふう…んう〜」

▼あなたもソファに座り

▼一息

「えへへ〜…座ったね〜♡ よしよし〜」

「はあ〜」

▼自然な感じで

「楽しいな～」

「だって、ずっとあんたと一緒にいられるじゃん？」

「昔はずっと一緒にさ～、遊んだりもしてたのに～

最近はそういうのもなくなっちゃったからね～」

「って、小さい頃の話すぎるか～あはは～」

▼楽しそうに

「でも～あんたと一緒に入られて楽しいのは、ホントだわ～」

「ん～？ ああ、いや～変な意味じゃなくてよ？ ほんとに～」

▼好きな感情を隠そうと

「うん...ほんとに...」

▼緊張をごまかすために水を飲み

「んっ、んぐ、ぐっ、ぐう...ぐっ...んっ...」

「...ふう。お水...おいし...」

▼顔を横に倒して、あなたの方に頭を預け

「はふう...」

▼あなた、何してるの？ 的な聞き方

▼なんてことないように

「ん～...ただあんたにもたれかかっているんですけど～？」

「酔っ払ってんだからしょうがないじゃ～ん？」

▼緊張

「ふう、ふう...」

「...あんたは、どうだった？」

「その...私と、こういう関係になってさ...楽しい？」

▼あなた、楽しい的な反応

▼そっけなく(内心嬉しい)

「んっ...そ...」

「なら、良かった...」

「嫌だったら、ひとりテンション上がってる私が、変だもん...」

▼緊張

「ふう、ふう...」

▼あなた、テンション上がってるの？ 的な反応

▼鈴菜、わかんないのという感じで

「そうだよ？ テンション、上がってるわよ」

「居酒屋でもさ～…店員さんにいい人できた～なんて喋っちゃうくらいには…」

「んっ…あんたも聞いてたでしょ？ 店員さんにさ～彼氏ですか？

って聞かれてるとこ～」

「はあ…いや、酔っ払いすぎてたのかな～…弟をそういう風に言っちゃって…」

「はあ…変…だよな？」

▼あなた、だまり…

▼鈴菜、あなたに無視されてると思い、あなたの前に顔を移動

「ふう、ふう…ちょっと、なんか応えて…」

▼あなた、不意打ちキス

「んっ…ちゅっ！ ちゅう！ ちゅっ…ちゅう、れるれる…んふう♡

れる、ちゅう…んう！」

「んっ、こらあ…♡ キスでえ…れるれる、誤魔化そうと…

んちゅう、すんなあ♡」

「ちゅぶっ、ちゅう、んふう…れるれる、んちゅう、ちゅう…んんう♡

れるれる…」

「はあ、はあ…はあ…んう♡」

▼鈴菜、あなたの心情を察し

「そういうこと？ なの？」

「あんたもさあ…もしかして…私のこと…」

「ただの姉として、見てないってこと？ その…なんていうか…さ」

▼あなた、認める

▼鈴菜、ドキッとして

「んっ…！ そ、そう…なの？」

▼嬉しそうに

「ふう…♡ 素直に、嬉しい…かも♡」

▼顔を近づけ

「じゃあさ～…これからは、もっと仲良く…できそう…だね♡」

▼激しめベロチュー

「んう…ちゅっ、ちゅうう…ちゅぶ、はあ、はあ…れるれる、れるちゅう…」

「ちゅっ…ちゅう、好き…しゅき…れるれる…れるちゅう…♡」

「んちゅう、むちゅう、ちゅぷう…♡ んう…はあ、はあ…」

▼嬉しそうに

「えへへ～…♡」

「んふう…顔、熱くなってる…♡ 飲みすぎちゃったかも～」

「ん、あんたも…ね♡」

「ふう、ふう…そーだ♡」

「水…飲ませてあげる♡」

▼鈴菜、水を口に含み

「んっ、んぐ…んぐ…んぐ…」

▼口を突き出して

「んーんっ…」

▼口移しで水を飲ませる

「んっ、ちゅう…♡ んふう、ふう…ふう…んっ、んく、くっ…」

「んふう…飲ませちゃった～♡」

「これ、けっこーいいかも…」

「あんたもさ～してよ？ 口移しで…私にお水、飲ませて？」

▼ペットボトルを渡して

「ほら…」

▼期待した眼差しで

「ふう、ふう…」

▼口移しで水を飲ませてもらう

「んっ、ちゅう…♡ んふう、んう、じゅぶ、じゅりゅ、んぐう…んく…♡」

▼満足げに

「ふはあ～♡」

「ん…ごちそーさま♡」

▼あなたの股間が反応していることに気づき

「はあ、はあ…ふう、んっ…あ…♡」

「もう、キスしただけでこんなにしちゃって～♡」

「こーふん、してるな～？」

「じゃあさ～…また、しちやおっか？」

▼顔を近づけ

「ていうか、私がしたいし～…♡」

▼キス

「ふう、ふう...んう、ちゅっ...ちゅう...んんっ！
れるれる、れろれる...れるむちゅう...」
「んふう、ちゅう、ちゅう...れるれる、れろれる、れるりゅう...んっ！
んふう...♡ ふう...♡」

▼キスを終えて

「んっ...♡ チュー...好き♡ ふうつ...」

▼服を脱ぎだし

「はあ、はあ...はあ、はあ...」

▼誘うように

「んっ...しちやお？ しちやお？」
「もう、私も、準備万端だから...さあ〜♡」
「ふう...はあ...♡」

▼あなたもズボンを抜き

▼あなたの上に乗る

「よーし...んっ♡」

▼楽しげに

「んふ、この体勢なら...キスもずっとできるなあって思っ〜」

▼性器がこすれて、気持ちよさそうに

「んっ...んう♡ もう、入口...こじ開けようとしてきてえ...気持ち...いい♡」
「じゃ...挿れちゃうから...♡」

▼腰を浮かして自ら挿入

「はふう、ふう...んっ...んんんう！」
「んう、んんんう〜！」
「はあ、飲み会后のおちんぽ...キクう〜っ！」
「それに、この体勢だと...まっすぐ奥まで突き刺されて...気持ち一よ♡」

▼キス

「はあ、ふう...んっ、ちゅう...ちゅう、れるれる、れろれりゅ...ちゅぶう...」
「んふう♡ ちゅっ、ちゅば、ちゅぷ、ちゅば、ちゅぶっ、ちゅぶっ...ちゅう...」

▼あなた、腰を突き上げて

▼驚きつつも、キス継続

「んんう!? ちゅっ、ちゅう...れるれる、れろれる、れりゅ、んう...
んちゅう、ちゅぷ...」

▼おほ声がまじりながら

「ふう、ふう...んっ！ おう...！ ちゅっ、ちゅっ...
れるれる、れろ、ちゅう...♡」

▼キスを終えて

「ふう、ふう...んう！ ごめ、また...変な声、漏れちゃった、かも...お...♡」
「んふう、ふう...だって、らって...下から突かれるの、気持ちいいんだもん...♡」

▼感じて

「んふう、ふう...はあ、あっ...んう！ あっ！ あっ...んう！
くう、ふう...♡ んう...」
「んんう、んーん♡ 全然...あんたが気にしないなら、平気、だよ...♡」
「でも、変な声漏れちゃって...テンション下げるのも、あれだから...」

▼あなた、腰を突き上げ

「んっ！ おおっ...!? んう！」
「んう、んう...おおっ！ おう！ んう！ おおっ！ んう！」

▼恥ずかしそうに

「ちょっと、今...んう！ わざと...やったでしょ」
「んう、ふう...ふう、こんなんでも興奮するとか...変態...じゃんっ...♡」

▼感じながら

「はあ、はあ...んう！ 激しくされて...喜んじゃってる、私も、おお...っ！
人のこと...言えないかも、だけど...おおおっ...！」

▼気持ちよさに声が抑えられない

「んおう！ おおう！ おっおうおっ...んう！ ぐう、ふう、んぐっ...ぐう...！」
「お！ おっおおっ！ おう...ほおっ...！ ふうう...んう、おっ...んおう！」

▼あなたの方を見ながら

「ふう、ふう...んう！ はあ、ふう、これ、やつぱ...恥ずかし...い...」

▼キスをして声を抑えようと頑張る

「んふう、ちゅっ、ちゅう...れるれる、れるれろ...んっ、んう♡
ちゅう、ちゅぶっ...」
「れるれる...おおっ！ れちゅれむっ...んう！ んちゅぶちゅう...
んお、おおお♡」

▼声が漏れてしまい、恥ずかしい

「んんっ...キス、しても...声、全然...抑え、られない、しい...♡」

▼キス再開

「んちゅっ、ちゅう...んおお...ちゅっ、おお、んおおちゅっ、ちゅう...おっ！
ちゅっ！ おお...♡」
「んんう...ほっ、ほお...んちゅっ、おお...ちゅっ、ちゅぷ、んう...」

▼軽イキ

「んう、んんんううう！」

▼あなたにしがみつきながら

「んう、はあ、はあ、はあっ...んう！ はあ、ふう...ふう...んうつ...！」
「ん...先、イツちやった...♡」
「だって、気持ちいいんだも...」

▼あなた、腰を突き上げ

▼声が漏れ

「んっ...おおっ...!？」
「おお...んんっ！ んんう！ はあ、ふう...んう！ ああっ！
ああっ！ んう！」
「んんう！ 容赦なく...突いてくる、じゃんっ...！ んう！ ああっ！
あっ！ んう！ ああ！」
「んんう！ おおっ！ ンおっ！ ほおっ！ んんう！」
「んう！ もう、興奮、しすぎ、だよお...はあ、はあ...んう！」
「奥の...一番奥まで、届いてるしい...♡ んう...♡」
「これ...やっ、ばあい...つてえ...♡」

▼あなた、スピードアップ

▼感度が高まり

「んう！ あっ...おおおおっ！ ンお！ っおっ、ほお...！」
「ふう、んう！ んんう、いじわる...♡ んう♡ ほっ...ふう、んう...ぐう♡」

▼キス

「んう♡ ちゅっ、ちゅう...ちゅぶっ...れるれる、れろれる、れるれる、
れるちゅう...♡」
「はあ、ふっ...んう♡ れるれる、れろれる、れる、れる...
れるむっ、ちゅううう♡」

▼あなたの限界に近いことを悟り、耳元に顔を移動させ

「ふう、ふう...んう、はあ、ふう...んう！ うっ...おおっ...んう！ ぐう...♡」

▼感じながら

「はあ、はあ...ふう、ほお...あんたも、そろそろ...？ イキそ？」
「んう！ おう！ ほおっ...ふう、ふっ...んう、ふう、はあ、ああっ！
あっ！ んう！」

▼我慢しつつ囁き

「んう、ふう、ふっ...んう！ 我慢せずにさあ...イツちやいなさいよお♡」

▼耳キス

「ちゅっ、ちゅっ...♡ ちゅっ、ちゅう♡」
「私は、もう受け入れ準備、んう...ふう、ふう...はあ、万端なんだから...ね♡」
「れるれる、れるれる、れるちゅっ...んっ、ちゅうう♡」
「んふふっ♡」

▼正面に戻り

「ふう、ふう...んう♡ ふっ、ふっ...んう♡ ふう...ぐっ...んう♡」

▼あなた、スピードアップ

「んう！ おっ...んうっ♡ おんっ！ んお！ おあっ！ あっ！
んう！ んう！」
「はあ、ああっ！ んあ！ はあ、ああっ！ また...そろそろお...♡」
「はあ〜っ...おっ、おっ...んう、おおっ...んう！」

▼おねだりするように

「んう、ちゅ〜...ちゅ〜っ...♡ 出す時は、ちゅ〜してえ♡」
「んっ、おおっ！ んう、ほっ...おおっ...んう！ おっ...！」

▼キス

「ちゅう、ちゅうう...れるれる、れろれろ...れるれる...んう♡
れるちゅう...♡」
「んう、ふう、ほっ...ちゅっ、んじゅ、じゅりゅりゅ...れるれる、
んふう...おお...ちゅう♡」

▼キスしながら

「んう...ちゅっ、んう、グル...グル...大きいのっ...んう！ ちゅうじゅぶ...」

▼絶頂

「んう、んう、れるれるれるれ...るりゅれちゅっ...んうっ...んうううっ♡
んっ...イツ...く...」

▼中で受け止めながら

「んう、ほおおおおっ...♡」

▼絶頂の余韻を感じつつ

「おおおっ...♡ んう、ほおほお...んう、ふう...んんんんっ...♡」

▼食べるようにキス

「んう...♡ ちゅっ、ちゅうう...れるれる...れろれろ、れるれりゅ...」

「しゅき...しゅき...♡ ちゅう、ちゅううう♡」

▼キスを終えて

「ぷはあ...♡」

「んんう...♡ えへへっ...♡」

▼感慨深い感じで

「ほんと、身も心も...って、感じかも...」

「好き、だよっ♡」

▼キス

「ちゅううう...♡ ちゅっ、ぷふう～♡」

08.酔ったらキス魔になる姉は...

▼愛し合った後

「はあ〜あつつう...」

「ずっと密着してたから、汗、やばいね...」

「お酒も全部飛んじゃったかも...なーんて」

▼思いつき

「ねえ、また口移しでさ...してよ？」

「あれ、ハマっちゃったんだよね〜」

「特別な感じ、するじゃん？」

「うっ...いや、変なこと言ってるのはわかってるんだけど、さ〜」

▼照れつつ

「でも、私達は...そういうことしても、いいでしょ？」

「ただの姉弟じゃ...なくなったんだから...さ♡」

「ん、だから...いいの...」

▼おねだり

「ほら、ほら...頂戴？ おねが〜い♡」

▼あなた、姉の要望に応じて

▼口移しで水を分け合う

「んっ...ちゅっ、ちゅう...んふう、れるう...ごきゅごきゅ...きゅっ...んく♡」

「ぷはあ〜♡ おいし...♡」

「じゃあ、次は私からも...お返しに...」

▼水を飲み

「んぐ、んぐ、んぐ...」

▼口を突き出し

「んーん♡」

▼口移しで水を分け合う

「ちゅっ、ちゅう...れるれる、んく、く、んっ...♡ ふう♡」

▼キスを終えて

「そっちも、喉...潤った？」

「ん、なら良かった...♡」

「って...」

▼あなたの股間が反応していることに気づき

「今のキスでまた...反応してない!？」

「そんなにエッチだったかな？」

「はあ～...ホント、しょうがないんだから～」

「ん、いーよ...今晚は、いつまでだって相手してあげるから...」

▼嬉しそうに

「たくさん...しましょ...？」

▼キス

「んっ、ちゅう♡」

▼微笑み

「ね？ ふふふっ♡」